

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「検査を通して、子どもを好きになってほしい」

6月から知能検査の依頼が増えています。検査理由としては、学習のつまずきの背景を探って指導の参考にしたい、保護者が学校と家庭での子どもの行動に差があるのでその理由を知りたい、前回の結果と比較して子どもの成長を把握したいなどです。今号では知能検査を通して感じていることを紹介します。なお、特別支援学校や特別支援学級を希望するための検査は、診断書が必要になるため専門機関で受けることになります。

1 IQの数値は子どもの年齢や成長とともに変わるのか？

- ・IQの数値は、年齢を重ねても変化しないように作られているが、子どもの体調や意欲によって力が発揮できないときもある。発達途上にある幼少期の子どもや発達の偏りが大きい子どもは変動する場合がある。数値は絶対的ではなく幅がある。
- ・ある調査によると、年齢を重ねることでIQが上がった人3%、変化のなかった人30%、下がった人67%であった。

2 子どもの不安を和らげるために工夫していること

- ・子どもが達成感を味わい、見通しをもって取り組めるように、「クイズチャンピオンになろう!」、「あなたの得意な学習スタイルは?」という「がんばり表」を活用している。
- ・検査前に、「あなたの好きな食べ物は?」など、楽しい質問からスタートする。共通点が見付かると、お互い笑顔になったり、初対面であったも心の距離が縮まったりする。
- ・検査は約60分~90分かかるため休憩を入れて気分転換を図ったり、最近の様子や将来の夢等、子どもの内面を知る質問をしたりしている。加えて、検査時の様子を丁寧に観察し、数値に表れない側面も読み取って報告している。

3 検査報告で配慮していること

- ・検査報告書は、学校用と保護者用の2種類作成する。学校用の報告書には、IQの数値をはじめ、分析結果や子どもの様子、有効と思われる指導内容を記載している。
- ・保護者には、「同じ学年の子どもの中でどの位置にあるのか」が分かるグラフを基に数値の意味を説明している。また、保護者に心を開いて話を聞いてもらえるよう、最初に子どもの得意なことを説明してから、苦手なことを伝えている。

平均よりも下の数値にショックを受けてネガティブな感情に支配される、知的遅れないことに安堵の表情を浮かべる、これまでの子育てを振り返って涙を流すなど、保護者の感情は様々です。検査を通して子どもの状態を知り、子どもがどうすれば前に進むことができるかを考えるために役立ててほしいと思います。そして、検査者として一番の願いは、子どもをもっともっと好きになってほしいことです。

**とれたて直送便**

【子どもの良きモデル】

サッカー選手の入場で一緒に登場する子どもたちは「エスコートキッズ」と呼ばれています。子どもたちに夢を与えると同時に、フェアプレー精神や「サッカーをする者は皆仲間」というメッセージを伝えています。激しい接触プレーがあるからこそ、ピッチに入る直前に純粋な子どもと手を繋ぐことで、選手たちに「子どもたちの見本となるよう、正々堂々とクリーンに戦おう」という意識をもたせるねらいがあります。子どもは、大人の言うことよりも、大人のやっていることを学んでまねをします。子どもの良きモデルとなるように意識していますか。子どもは、いつも見ている大人に心が似てきます。